

第 4 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 4 号)

1 平成4年12月22日(火曜日)午後2時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	12 番 岩村 勝弘
13 番 榎本 春光	14 番 小宮 利夫
15 番 山中金治郎	16 番 鈴木 勝美
17 番 鈴木 忠夫	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 生稻 隆
21 番 神田 守隆	22 番 福原 勤
23 番 石井 昌治	25 番 流山源次郎
26 番 辻田 実	27 番 横溝 功
28 番 飯田 義男	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 川上 義雄
総務部長 斉藤 賢司
経済部長 小沼 晃
水道課長 鈴木 信一
教育委員会 会長 高橋 博夫
教育委員会 書記長 伊丹 三男

助 役 小幡 清之
市長公室長 永野 修
民生部長 佐藤 澄雄
建設部長 伊東 衛
教育委員会 会長 伊藤 昌彦
選挙管理委員会 会長 加藤 利
監査委員 鈴木 重司

監事 局長 島田 啓夫

農業委員会 会長 齊藤 明

農業委員会 局長 小倉 孝

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一

事務局長補佐 土橋 康彦

書記 鈴木 哲

書記 鈴木 修一

書記 松浮 郁夏

1 議事日程（第4号）

平成4年12月22日午後2時開議

- 日程第1 { 議案第70号 館山市の休日に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第71号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について
議案第72号 館山市地域福祉基金条例の一部を改正する条例の制定について
議案第74号 財産の取得について
議案第75号 平成4年度館山市一般会計補正予算（第4号）

- 日程第2 議案第76号 平成4年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）

- 日程第3 { 議案第73号 館山市企業職員の給与の種類及び基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
議案第77号 平成4年度館山市ユースホステル特別会計補正予算（第1号）
議案第78号 平成4年度館山市下水道事業特別会計補正予算（第3号）
議案第79号 平成4年度館山市水道事業特別会計補正予算（第1号）
議案第80号 平成4年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予

算（第1号）

- 日程第4 { 請願第10号 「義務教育費の国庫負担削減に反対する意見書」
採択に関する請願書
請願第11号 「第6次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画の完全実施を求める意見書」採択に関する請願書

日程第5 継続審査について

日程第6 議案第81号 人権擁護委員候補者の推薦について

- 日程第7 { 発議案第7号 朝鮮民主主義人民共和国との早期国交樹立促進に関する意見書について
発議案第8号 法務局職員の増員に関する意見書について

日程第8 発議案第9号 館山船形漁業協同組合の不祥事件に関する意見書について

日程第9 発議案第10号 南房総地域から首都圏へ接続する幹線道路網の早期完成を求める意見書について

開 議 午後2時04分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数27名、これより第4回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

議案の配付

◎議長（福原 勤君） 議案を配付いたします。

議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、議案第70号乃至議案第72号、議案第74号及び議案第75号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は、12月16日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長流山源次郎君。御登壇願います。

（総務委員会委員長流山源次郎君登壇）

◎総務委員会委員長（流山源次郎君） ただいま議題となりました議案第70号乃至議案第72号、議案第74号及び議案第75号にかかわる総務委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る12月16日の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、17日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主なものについて申し上げます。

まず、議案第70号館山市の休日に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。地域における週休2日制の状況については、官公庁及び銀行での実施がされているようであるが、零細業者に対しても市としては目配りをしていく必要があるのではないかと指摘に対しまして、ゆとりの基本となるのは労働時間の短縮と考えられる、今後とも商工会議所や各団体等と話し合いをしながら推進を図っていくとの説明がありました。

さらに委員より、この際市民サービスの向上について十分検討されるべきであること、また、広く民間企業での実施を考えると、市の経済の活性化を図ることが必要であるとの意見がありました。

次に、議案第71号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定についてであります。国家公務員との比較——いわゆるラスパイレス指数についての質疑に対しまして、現在 103.6となっており、改正後においても大きな変化はないとの説明がありました。

次に、議案第72号館山市地域福祉基金条例の一部を改正する条例の制定についてであります。本基金については各種民間団体が行う先導的な事業に対しての助成を行うことが趣旨であるとの説明がありましたが、さらに、果

実運用型であるだけに、その運用の方法、景気の動向によって事業実施に影響が出ないよう市としての対応を要望する意見がありました。

次に、議案第74号財産の取得についてであります。本会議に引き続き質疑があり、これらの土地については分水嶺の反対側にあり、工業団地計画区域とすると、放流等の関係から調整池や水路の新設がさらに必要になるとして計画区域から外されたものである。地権者との話し合いの中で区域内、区域外とも一括して購入してほしいとの条件があり、企業庁と相談の結果、今回提案している土地のほか8筆については区域の変更により企業庁が取得し、そのほかの土地について市が購入することとしたとの説明がありました。

なお、市はこれらの土地について今後代替地としての利用を図るとの考えを示していることについてさらに確認したところ、地権者との話し合いを行っている中で代替地の話も出ており、できるだけそういう方向で利用したいとの説明がありました。

次に、関連して、進入路の関係で交渉がスムーズにいったいないと聞くが、どうかとの質問に対しまして、9月に企業庁が稲部落に対し説明会を行い、測量の立ち入りの同意をいただいたという段階であり、地権者との話し合いは測量後になるが、一部家から離してほしいとか、農作物への影響を心配する意見が出ている。基本的にはルートは変えないが、微調整はあり得るとの説明がありました。

次に、議案第75号平成4年度館山市一般会計補正予算（第4号）であります。乳幼児医療費給付金187万2,000円が増額補正されておりますが、本制度は6歳未満ということで実施しており、全国でも最も進んだ施策をとっていると考えるが、現在の制度のもとでは、国保の加入者には通知が行くが、社会保険の加入者にはそれがなく、十分制度が利用されていない面もあるので、今後病院窓口へのポスターの掲示、医師会の協力、また母子手帳交付の際にパンフレットを渡すなど、具体的な対象者に広報をするようにとの要望意見がありました。

以上、審査の概要につきまして申し上げます。

採決の結果、付託を受けました議案第70号乃至議案第72号、議案第74号及

び議案第75号については、いずれも全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長の報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案についての委員長報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第2、議案第76号平成4年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）を議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました議案第76号は、12月16日

の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより本案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長山崎雅己君。御登壇願います。

(文教民生委員会委員長山崎雅己君登壇)

◎文教民生委員会委員長(山崎雅己君) ただいま議題となりました議案第76号平成4年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)にかかわる文教民生委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る12月16日の本会議におきまして本委員会に付託されました議案第76号につきまして、17日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等について申し上げます。

まず、保険税の収納状況についての質疑があり、9月分の収納状況について、現年度分、昨年度対比で1.19ポイントのプラスであるという説明がありました。なお、徴収に当たっては、勤務時間外にも夜間臨戸徴収、夜間の電話催告等を行っているとの説明がありました。

次に、関連して、成人病予防に対する今後の対応についてお伺いしたところ、市民への健康教育、健康相談については現在も相当回数行っているが、さらに来年度の老人保健福祉計画の策定に当たっても、この推進とともに、将来の対応としてさらに早期発見、早期治療に努めるよう検討してまいりたいとの説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第76号平成4年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)については、全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で文教民生委員長の報告を終わります。

◎議長(福原 勤君) 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長(福原 勤君) ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。
よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第3、議案第73号及び議案第77号乃至議案第80号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は、12月16日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長脇田安保君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長脇田安保君登壇）

◎建設経済委員会委員長（脇田安保君） ただいま議題となりました議案第73号、議案第77号乃至議案第80号に係る建設経済委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る12月16日の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につ

きまして、18日委員会を招集し、審査を行いました。

まず、議案第73号館山市企業職員の給与の種類及び基準を定める条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回の改正は企業職員の扶養手当に関するものであり、人事院並びに県の人事委員会勧告に基づいた改正で、各自治体とも同様であるとの説明がありました。

次に、議案第78号平成4年度館山市下水道事業特別会計補正予算（第3号）であります。終末処理場基本設計委託料 2,800万円の追加補正について説明を求めましたところ、当初 2,600万円の事業費により処理場のボーリング調査等の基本設計の一部を実施しており、今回さらに国の補助採択がされたもので、これにより処理場の基本設計がすべて完了することになるとの説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第73号、議案第77号乃至議案第80号につきましては、全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で建設経済委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

請願書の上程

◎議長(福原 勤君) 日程第4、請願第10号及び請願第11号の各請願を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長(福原 勤君) ただいま議題となりました各請願は、12月16日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各請願に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長山崎雅己君。御登壇願います。

(文教民生委員会委員長山崎雅己君登壇)

◎文教民生委員会委員長(山崎雅己君) ただいま議題となりました請願第10号並びに請願第11号にかかわる文教民生委員会における審査の概要について御報告申し上げます。

去る12月16日の本会議におきまして本委員会に付託されました請願につきまして、17日招集された委員会において審査を行いました。

請願第10号について、委員より、県下の状況を見ても採択されているようであるし、直接市に経済的な負担はないと思う、趣旨としては理解できるという発言がありました。

採決の結果、付託を受けました請願第10号並びに請願第11号ともに全員一致をもって採択するものと決しました。

以上御報告申し上げまして、文教民生委員長の報告を終わります。

◎議長(福原 勤君) 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

- ◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。
— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

- ◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。
通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。
よって、討論を終結いたします。

採 決

- ◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。
採決は一括して行います。
各請願についての委員長の報告は採択するであります。
各請願を委員長の報告どおり採択することに御異議ありませんか。
（「異議なし」と呼ぶ者あり）
◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各請願は採択することに決しました。

日程の追加

- ◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。
ただいま採択されました請願書に附帯して発議案第11号義務教育費の国庫負担削減に反対する意見書について及び発議案第12号第6次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画の完全実施を求める意見書についてが提出されました。この際両議案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

- ◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、両議案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 発議案第11号及び発議案第12号を一括して議題といたします。

議案の配付

◎議長（福原 勤君） 議案を配付いたさせます。

（議案配付）

◎議長（福原 勤君） 議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（福原 勤君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 提出者の説明を求めます。

（11番議員山崎雅己君登壇）

◎11番（山崎雅己君） ただいま議題となりました発議案第11号並びに発議案第12号について提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、ただいま採択されました請願書の趣旨を体しまして、関係機関に意見書を提出いたしたく、8名の賛成者を得まして提案した次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

各議案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論は一括して行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

継続審査について

◎議長（福原 勤君） 日程第5、請願書の継続審査についてお諮りいたします。

建設経済委員会に付託中の請願第8号「コメ市場開放反対都市宣言」を求める請願書について、委員長から慎重審査の必要上、会議規則第104条の規定により閉会中の継続審査とされたいとの申し出がありました。本請願を委

員長からの申し出のとおり閉会中の継続審査にすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本請願は閉会中の継続審査とすることに決しました。

議長の報告

◎議長（福原 勤君） なお、この際申し上げます。

各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第6、議案第81号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（福原 勤君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 議案の説明を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 議案第81号人権擁護委員候補者の推薦について提案理由を御説明申し上げます。

来年1月31日をもちまして任期満了となります人権擁護委員1名につきまして、人権擁護委員法第6条第3項の規定により候補者の推薦を求められておりますので、池田勝さんを最適任者といたしまして御推薦申し上げたいと存じます。

御賛同賜りますようお願い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第7、発議案第7号及び発議案第8号の各議案

を一括して議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(福原 勤君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(福原 勤君) 議案の説明を求めます。

流山源次郎君。御登壇願います。

(25番議員流山源次郎君登壇)

◎25番(流山源次郎君) ただいま議題となりました発議案第7号及び発議案第8号について提案理由を御説明申し上げます。

両議案ともに、委員会において了承できるものとされた陳情書の趣旨を体しまして、関係機関に意見書を提出いたしたく、それぞれ賛成者を得まして提案いたしました次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長(福原 勤君) 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長(福原 勤君) これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長(福原 勤君) お諮りいたします。

各議案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、各議案については

委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論は一括して行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第8、発議案第9号館山船形漁業協同組合の不祥事件に関する意見書についてを議題といたします。

本件は庄司二三男君の従事する業務に関する事件でありますので、地方自治法第117条の規定により同君の退席を求めます。

（10番議員庄司二三男君退場）

◎議長（福原 勤君） 議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（福原 勤君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 議案の説明を求めます。

（25番議員流山源次郎君登壇）

◎25番（流山源次郎君） ただいま議題となりました発議案第9号について提案理由を御説明申し上げます。

本議案につきましては、委員会において了承できるものとされた陳情書の趣旨を体しまして、関係機関に意見書を提出いたしたく、賛成者を得まして提案いたした次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論はありませんか。

飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 私は発議案第9号に対して反対討論をいたします。

御承知のとおり、この問題の調査権は県であります。したがって、市には直接の調査権はございませんし、既に県の指示もあり、告訴をされまして、

被告とされる女性はいくらも司直の手によって調べられるということになった問題であります。したがって、県といえども、今後は司直の調査によって行われることになるので、この発議案を県に出すことに余り意味がないということをお私は考えております。

その第2の理由として、本陳情書は船形漁業組合の一部の人たちの陳情であり、大多数の組合員の意思とは異なると思われるので、本陳情の採択は組合員内の紛争を招きかねないおそれもあると私は考えております。したがって、この問題についてはより調査検討をすべき問題であろうと思いますし、直ちに採択することには賛成しかねるものであります。

以上、反対理由を申し上げて、反対討論といたします。

◎議長（福原 勤君） 他に討論ございませんか。

（「26番、議事進行について」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 私は反対討論しますけれども、議事の中でもって討論は反対、賛成と交互に行うとなっておりますから、反対、反対とやりますとちょっとあれだと思いますから、賛成討論をやっていただいた後に私がやろうと思いますので、なければ反対討論やります。その点諮っていただきたい、こう思います。

◎議長（福原 勤君） 通告はありませんから結構です。どうぞ。

◎26番（辻田 実君） それじゃ、そういうことならいたします。

私は今回船形漁業協同組合におきましてこうした不祥事件が起きましたことについて非常に残念であり、こうした事件を起こしたその責任は厳しく追及されるものだと思います。また同時に、再びこういう事件が漁業だけでなく、どんな面においても起きないようにすることが適正であろう、こういうふうには考えております。そうした面におきましては、この陳情書におきましても慎重に取り扱い、万全を期したいという観点から、私はその点について、まだ現時点で採決するに際しましては疑義が多く残されており、そのことがやがて火種になって必要以上の混乱を起こすおそれがありますので、この意見書の採決については反対するものでございます。

具体的には — 意見書に対する反対でございますから申し上げます。この意見書の3行目、ここに漁業協同組合での問題であるだけに、漁業振興への影響が懸念されるということによって言っていますけれども、漁業協同組合の問題であれば、漁業協同組合の結論、漁業協同組合の民主的な討論の上に立って行うべきであって、市会がこの点について、十分なる漁業協同組合におきますところの内部の討論、そういったものについては把握されておらないというふうに思います。漁業協同組合は、聞くとおるところによりますと、この26日に総会をやるそうでございますから、そういう中でもかなり論議されて、漁業会としての方針が出るだろうと思う。そうしたことを待ってからやるべきで、ここでその前に漁業協同組合の問題であることを議会でもって取り上げるということについては余り適切じゃない。今後こうしたことになれば、農協においても商工会議所においても観光協会においても、市内の問題市議会でも取り上げていいということになりますから、団体の問題は団体で処理してもらおうということで、文章上余り的確じゃない。

第2番目には、その次の行に意見書提出を求める陳情書が提出されたということが入っておりますけれども、この意見書も — 陳情書につきましては多数でもって総務委員会でもって採択されたわけでございますから、これはこれで尊重しますけれども、私はその中でも申し上げましたように、この陳情書の中には非常に、何というんですか、あいまいな点が多過ぎる。そして、それらの問題についてやはりきちんと整理した上ででもって対処しないと、今後大きな禍根を残す。特にその内容において、人権に関すること、また漁業会の名誉に関すること、こういうようなものも多数含まれておって、軽々に扱えない。私はこの真実を究明していかなければならないということでもって反対するわけでございます。

それはもう具体的にこの際でございますから申し上げます。きょうは新聞記者の人見えていないようですけれども、17日の総務委員会では新聞記者の人が多数見えていました。きょうは記者クラブの中でもって聞いておると思いますので、間違いなく伝えてもらいたいと思うんですけれども、この陳情書の第1に、総代会が11月の27日に文書をもってこの撤回を申し入れたにも

かわらず、これらについて無視されている、それについて回答がない、こういうようなことが主文になって、組合の民主化云々ということでございますけれども、これは組合の問題でございますからやれるかどうかということで、私が正確には19日の日に総務委員会の議を経て漁業協同組合を訪問いたしまして、19日の午前11時20分から漁業協同組合の部屋で専務理事と職員組合の代表と会計担当と話したわけでございますけれども、その中で聞いてみると、かなり論議はされているようでございます。そして、ここにも書いてありますように、総会では執行部一任が決議されたということも書かれておりますけれども、総会で決議されたものについては、それはやっぱり尊重するのが当然だと思うんですけれども、それを尊重できないから云々ということでもって、その問題を市議会へ持ってくるというのは余り適切じゃない。

聞くとところによりますと、この陳情者79名の——79名ですね、鈴木英男外78名と書いてありますから。この中には総代の方が46名いるということを知っております。これは私は名前わかりませんからあれですけれども、いるんだと思います。それで、総代というのは59名です。59名のうち46名の人が漁業会の問題を市議会に陳情してくるんだということについては全く理解に苦しむ。私はこれ聞いてみたいと思うわけです、実際に。この59人中46人が陳情したのであれば、総代会の中でもって議決すれば、それでもっていいわけですから、それをなぜ市会へ持ってこなきゃならないのか、そこら辺がまだ不十分で、そこらの辺の真意のほどを伺いたいということが第1点。第1点はそういった点について疑義が残されている。

第2番目は、市の漁業振興政策も有名無実なものになりかねませんということを行っているんですけれども、総務委員会の討論の中では——市長を初め漁業問題にはかなり力を入れていると思います、市長も力を入れてやっているということの答弁があったわけでございますから。私は欲目に見て、日ごろから漁協に対するところの補助金だとか何かは農協だとか商工観光に比べると多過ぎるんじゃないかと思うぐらい——むしろ思っているんですけれども、ここへきて市の振興策が有名無実なものになりかねないということは何れにも飛躍し過ぎているんじゃないか。実際に今度の事件とこの関係にお

いて、具体的にどのような形でもって市の政策が有名無実になるかということについてはもうちょっと慎重にやっぱり対処しなきゃならない。そこら辺は全く究明されておらないで、私なりに現地でもって確認した点については余り——それはいろいろと漁業というのは不振になってきておりますから、市の政策が悪くて云々ということじゃないというふうに思っておりますので、そういう文面がこういうところになされておることについては、これは不適切な文章だというふうに感じるわけでございまして、実際に市の振興策が有名無実になりかねないというのはどういう根拠であるかということについてもう少し深めてみたい。ここら辺を一方的に聞き入れるということについては、私はちょっと納得できない。

3番目には、県の指導監督は、何というんですか、強化してきていることについては否定しない。しかしながら、やはり一抹の疑問をなしとせざるを得ませんということでございますから、県の指導監督は十分でないような文面になっておる。私は県の出先の責任者に会いましたところが、県は県なりに漁業振興は一生懸命やっています、監査も一生懸命にやっています、こういうことを言っていました。今回の事件は県の監査でもって指摘したものであって、その後の指導については、私には言えないけれども、かなり厳しい指導をしてやっておるので、そしてその点については県としては十分だということを言われておりましたし、また市長の方もこうした事件が再び起きないように県の方にいろいろとお話しされたそうでございますから、私はそれをもってよしと思うんですけれども、こういう形でもってこの文章に——事件の全容、こういうことが意見書の中でもって十分討論されないまま出てきている。

私はあえて言わせてもらいますけれども、17日、本日の総務委員会の中でもって大変な事実が5つ出てきているわけです。これについてやはり究明して、白黒ははっきりつける。この5つのどれかでも該当があるようであったらば、漁業会に対してもそれなりの適切な措置をとらなきゃならないし、同僚議員の庄司議員に対しても厳しい措置をとりたい。私はそういう点については人後に落ちないものでございますけれども、その一つは、やはり全員協議

会を開いた席上で発言したことについて、その後漁業会に呼び出されて圧力をかけられたというようなことを言われているわけですが、この点について本当に事実なのかどうなのか。全協でもって討論したことについて、すぐ帰ってきて——内容はわかりませんが、圧力をかけるような事実があったら、断固として措置しなきゃならないというふうに思っていました、この点については、19日の日にその席に同席した漁業協同組合の副組合長がそういうことはなかった、全く圧力とか脅迫というのはないということを書いておりましたから、これらについてはどっちが本当なのか白黒つけたい。うそを言っている方について私は厳罰をもって臨みたいと思っている。

それから2番目には、ふれあい市場をやめることについて、市場の入札権を剥奪云々ということが出ておりまして、これは大変なことだと思いました。これは漁業会としては行き過ぎであるし、こういうことはやっちゃならぬと思って、私はそういう点でもってこの確認に参りました。そして、私は3人の出た人に聞きました。そのうち1人は、私は今市場には入っておりません……

◎議長（福原 勤君） ちょっと辻田議員、意見書に対する討論でございますから、余分なことはひとつ差し控えてください。

◎26番（辻田 実君） 討論になったことですから、それは言わせてもらいます。

その入札をやめさせたということでございますから、1人は今それが原因でもってやめたそうでございますけれども、これについてあんたは漁業会の方でやめさせられたのかということを質問しましたところが、いや、そうじゃない。一応話し合いの上で自主的にやめているという形になっているから、漁業会が一方的じゃなかったという意見。さらには2人の方は、私については差しとめ食っていませんでした。ほかの人は食ったらしいということで、ほかの人にもう一件聞いたところが、私も差しとめ食っていなかったから食わなかった。この点については漁協の専務さんに19日に聞きましたところが、差しとめしたのはございません。ただ、1社だけは話し合いでもって差しとめになっておりますけれども、その他はなかったということでございますの

で……

◎議長（福原 勤君） 辻田議員に申し上げます。これは意見書についての討論でございますので、それはやめていただきたいと思います。

◎26番（辻田 実君） そういうことが討論されたのは事実ですから、別に——経過していますから、そういう前提の上に立ってこれらが採決されていくということになりますと大変な問題でございますから、さらには……

（「議長、暫時休憩」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 暫時休憩いたします。

午後3時00分 休憩

午後3時15分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

辻田 実君の討論を続行いたします。

◎26番（辻田 実君） 続けて意見を述べさせていただきます。

そうすることで、この市場の入札については、私が調査した——本人に聞いてみると、受けていない。漁協の方も差しとめはしていない。1人だけは話し合いの上今なっているけれども、近いうち解消されるだろうということであったものですから、これらについてはかなり論議が、何というんですか、不正確さも残しておるので、これはどちらか白黒つけて、とめているようなことがあれば、漁業会に対しても相当な措置をとりたいというふうに思っています、なければならないで、こういうようなことをもとに意見書が出るということになりますと若干心外でありますので、これはきれいにしたい。

それから、よその船が船形の港へつなぐのもってトラブルがあったこととか、さらには職員がいろんな署名をして、事件の責任をとって役員と一緒に、ともにやめるんだというような署名が出てきまして、こういうことを役員が強制的にやらせたというようなことがあれば、これはもう大変なことでもって、そうしたものについては徹底的に究明しなきゃならないし、そこら辺のそういううわさも出ておりますし、そういうような意見も一、二委員会の中で出ましたから、出たからには、これはやっぱり委員会として白黒つけるべきだ。

5 番目に、1 つは、これは大変な問題でもって、元役員が退職をした。これに絡みまして退職金が払われたとか、休職になってからの給与の扱いがどうかとか、いろんなそういう問題、今大変困っておるというような問題も出てきておって、こころ辺はかなり人権的な問題があって、私はさっき言ったように協同組合の会計その他に聞いてみると、そういうふうな事実はない。それが、ああいうことがどこから出てきてああいうふうになるのか。これは大変なことでもって、白黒つけてやらないと、これはもう人権その他の問題になって大変だろうなと思う。

こういう点については、私はどっちが正しくてどっちがどうかということ はわかりません。しかしながら、こうした問題がやっぱり総務委員会の中で公式に出たからには、委員会の責任において白黒をきっちりつけて、黒に対してはもう厳罰しなきゃ — 大変なことなんですから、こういうことは、そこら辺についてまだ不十分なままに採決に入ることについては、私は不適切、まだ時期尚早だというふうに思っております。

3 番目に、その次の行に事件の全容を明らかにされるとともにということで、県に対して事件の全容云々ということについては、告発したし、そして市長もそういうことについては県に言っているということですから、事件の解明というのはそうはできない。そもそもの発端を私はいろいろ関係者から聞くと、総会の席でもってこの事件のてんまつについて討論された。ただし、執行部が告発しないということに対しての不満があったということで、それさえなければ問題のてんまつについてはおおむね了解されているように聞いておったんですけれども、したがいましてこれが告発になったわけですから、あとは白黒ははっきりするでしょうから、白黒ははっきりした中においてはそれなりの態度等をとらなきゃいけない。司直の手にゆだねられたものを県に対して全容解明しろという意見書を出すということについては、私は県に対して失礼であろうと思うし、自治体としてそういう点が明らかでないものについてはやるべきじゃない。司直に渡ったら司直に任せるべきだ。市長も、館山市としては司直に渡したから、真相云々ということは私は答弁できません、こういうことを言っておりましたけれども、まさに県も同じだと思います。

こういうことを強引に意見書として採決していくということについては、新たな問題を起こすんじゃないか。船形の漁業協同組合、聞くとところによると300名ぐらいいるということでございますから、ここへ出てきた人は79人ですか、の意見を聞いて、それが全部本当ならいいんですけども、ほかの人の意見もやっぱり聞くべきだ。

2点だけ不十分さがこの中であった。1つは、該当者の組合長が市議員です。その市議員の弁明は、告訴するかしないかでもって話をしたときに、告訴するということで決着ついています。そのほかで言った5つの問題についてはその人の釈明を得ていません。私は同僚議員の少なくともその釈明を受けた上でもってやるべきだと思っている。告訴については釈明は聞きました。やりました。それが1つ。

それから2番目に、この問題がこういうことでもって採決されることによって、これに加われなかった多くの組合員がやはりこれは大変だということでもってまた新たな問題を起こしてくると、館山の中はもうめちゃくちゃになる危険性がある。私はそれを恐れる。それらの人たちの見解は正式に聞いていない。漁業協同組合、そして漁業協同組合の役員に真相はどうかということを明らかにした上でやらないと、ここら辺の言うことを聞かないで、見解を十分聞いていないままに意見書を採択して、それを県へ出すということ是不十分である。

時間も、7分と言っていましたから、あと2分あると思いますから打ち切りますけれども。そういうことでもって、今ここではこういう問題については市が対処すべきだ。館山の市議会優秀な人が多いわけですから、今言ったような問題について、これは市の問題だから市が解決していくべきだ。そして、適切な指導と責任を追及すべきだ。こういう問題を県に渡すということについては、館山にしてみれば、市長さんもこのぐらい解決できないのかというような不信も招くんじゃないかと思って私は心配でして、ほかの市議員は別として、私はこのぐらいのことはある程度、船形の漁業会の問題点についてはある程度の指導その他はできるというふうに踏んでいるわけですから、そういう時間が欲しいような気がいたしまして、そこら辺が不

十分なまま市議会の議決ということでもってやることについては今適切じゃない。ですから、これは適切な時期にそういった真相を明らかにした上においてやるべきだというふうに考えておりまして、私はそういう観点から、今ここでもってこの意見書を採択するについては時期尚早だ、こういうことを申し上げまして、反対をする次第でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 他に討論はありませんか。

小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） ただいま先輩議員2人の方から反対の意見が出たわけでございますが、総務委員会の流山委員長が提出者で、あと5議員が賛同者になっております。この賛同者6人の考え方、そういうものを尊重しましてこれは継続審議にするということで、ひとつ採決の方法を2通りに分けていただきたい、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） これは討論でございますので……。

他に討論ございませんか。—— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（「議長」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） 採決の方法、私が申し上げたようなことをやっていただきたい、このように思っています。

◎議長（福原 勤君） じゃ、事務局の方から説明させます。

◎事務局長（兵藤恭一君） 事務的なことでございますので、私の方から御説明を申し上げます。

既に先ほどから討論に入っておりますので、討論につきましては原案に対

して賛否の意見を述べるだけでございます。継続審査等についての動議については討論の段階では提出をできませんので、御了承をお願いいたします。

以上でございます。

◎14番（小宮利夫君） 了解。

◎議長（福原 勤君） 本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

（10番議員庄司二三男君入場）

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第9、発議案第10号南房総地域から首都圏へ接続する幹線道路網の早期完成を求める意見書についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（福原 勤君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 議案の説明を求めます。

（9番議員脇田安保君登壇）

◎9番（脇田安保君） ただいま議題となりました発議案第10号について提案理由を御説明申し上げます。

当地域から首都圏へ接続する幹線道路網の早期完成を求める地域住民の声は切実なものがあります。本議案につきましては、安房郡の各市町村議会が歩調を合わせた運動の一環として、本市議会としても関係機関に意見書を提出いたしたく、7名の賛成者を得まして提案いたしました次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

閉 会 午後3時32分

◎議長（福原 勤君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたし

ました。

よって、これにて第4回定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第70号乃至議案第81号
- 1 発議案第7号乃至発議案第10号
- 1 請願第10号及び請願第11号
- 1 継続審査について（請願第8号）
- 1 日程の追加・発議案第11号及び発議案第12号

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

館山市議会議長 福 原 勤

館山市議会議員 山 崎 雅 己

館山市議会議員 鈴 木 忠 夫